

BCS Prize-winning Work

丸の内ビルディング

Marunouchi Building

所在地 / 東京都千代田区丸の内2-4-1

建築主 / 三菱地所株式会社

設計者 / 株式会社 三菱地所設計

施工者 / 株式会社 大林組

大成建設株式会社

清水建設株式会社

株式会社 竹中工務店

鹿島建設株式会社

株式会社 ピーエス三菱

竣工日 / 2002年8月20日

Location / Chiyoda-ku, Tokyo

Owner / Mitsubishi Estate Company, Limited

Architect / Mitsubishi Jisho Sekkei Inc.

Contractors / Obayashi Corporation

Taisei Corporation

Shimizu Corporation

Takenaka Corporation

Kajima Corporation

P.S.Mitsubishi Construction Co.,Ltd.

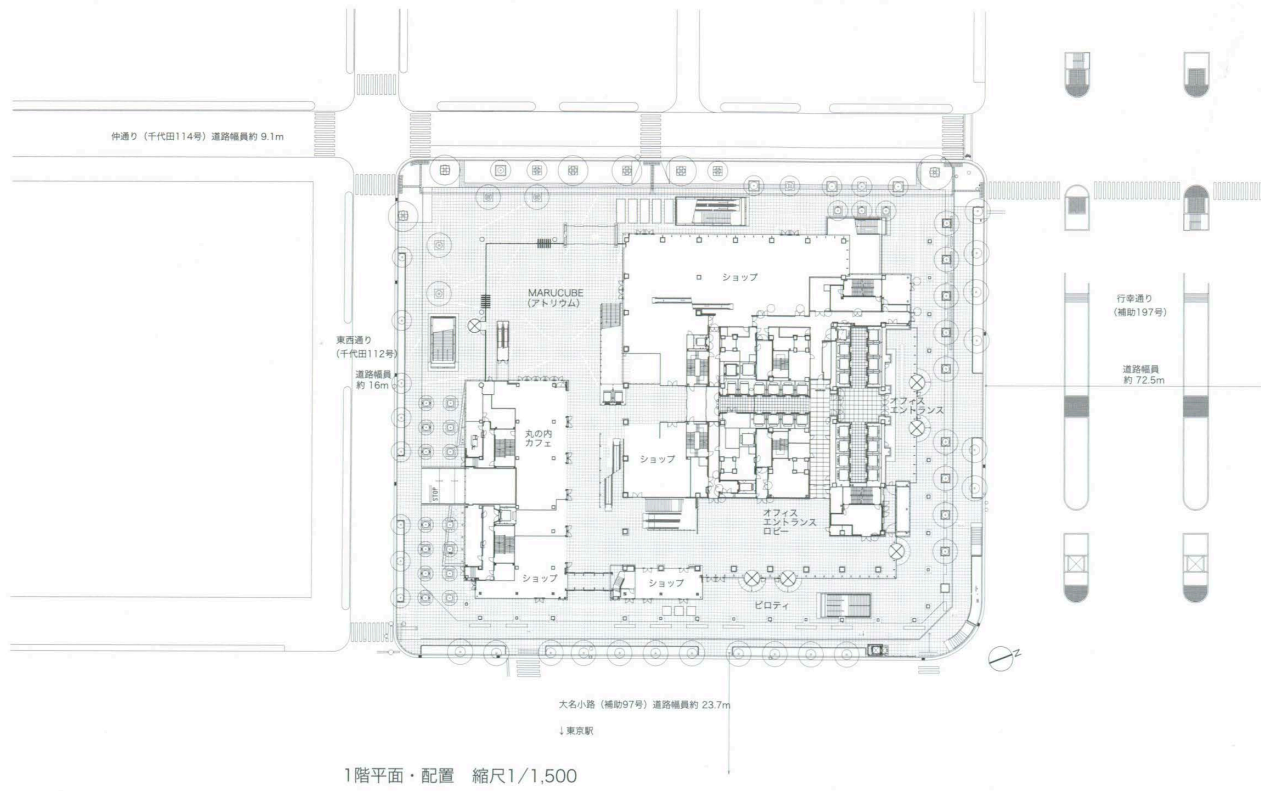
Completion Date / August 20, 2002

右頁：北東側外観 Facing page: View from the northeast.



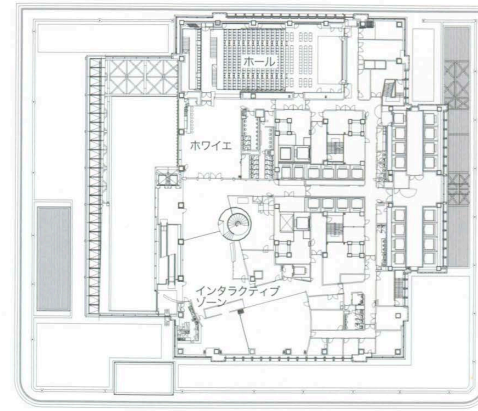
アトリウム Atrium.





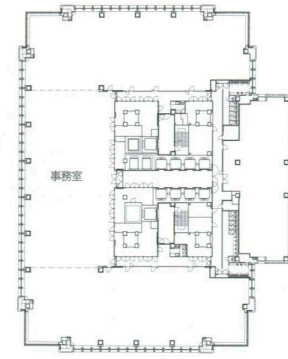
1階平面・配置 縮尺1/1,500

大名小路より見る View from the Daimyo-koji avenue.



7階平面

アトリウム夜景 Night view of the atrium.



33階平面



5階通路 The passage of the fifth floor.



行幸通りより見る View from the Miyuki-dori avenue.

建築概要

敷地面積 10,029.45m²
 建築面積 7,562.91m²
 延床面積 159,907.74m²
 階数 地下4階 地上37階 塔屋2階
 構造 地上部：鉄骨造
 地下部：鉄骨鉄筋コンクリート造
 施工期間 1999年4月～2002年8月

仕上げ概要

外部仕上げ
 屋根／アスファルト防水 コンクリート押え 外壁／[高層部(7～塔屋階)]ビニロン繊維補強軽量PCカーテンウォールフッ素樹脂塗装 コーナー部：花崗石打込み 高層部外壁PC打込み用花崗石：テキサスパール 高層部：アルミユニットカーテンウォール 35・36階カーテンウォール：アルミユニットカーテンウォール PC版フッ素樹脂塗装 [低層部(1～6階)]6階パラベット：アルミパネルt=2.5mm フッ素樹脂焼付け塗装 アルミリブ(型材)フッ素樹脂焼付け塗装 6階：特注アルミサッシュ フッ素樹脂焼付け塗装 3～5階：特注タイル打込みPCカーテンウォール 花崗石打込み 3～5階ガラスカーテンウォール・リブブリズムガラス：強化ウォーターフロントガラス2枚合せt=19+15mm 1～2階：花崗石打込みPC レイクブラシッドブルー カーテンウォール 1～2階ガラスカーテンウォール・フェースガラス：強化ウォーターフロントガラスt=19mm リブガラス：強化ウォーターフロントガラス2枚合せt=19+19mm 1～2階ピロティ柱用花崗石 開口部／3～5階：特注アルミサッシュ フッ素樹脂焼付け塗装 アルミキャスト方立：Vプロセスアルミキャスト+アルミ型材フッ素樹脂焼付け塗装 トップライト：アルミトップライト フッ素樹脂焼付け塗装 PC版フッ素樹脂塗装 三連アーチ復元特殊タイル：特注磁器質タイル乾式(湿式) [MARUCUBE (アトリウム)]ガラスカーテンウォールt=15mm 電動ハンガードア 外構／花崗石ディアブラウンt=40mm J&P

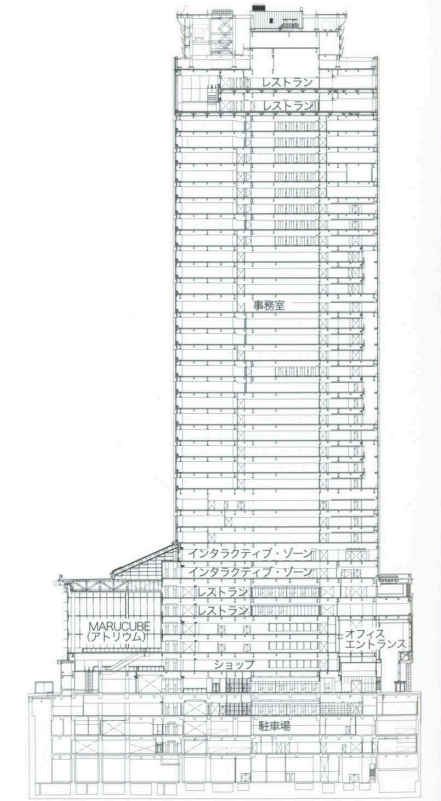
内部仕上げ

[基準階事務室] 床／タイルカーペットt=6.5mm 壁／PB t=9.5+12.5mm AEP 天井／システム天井(岩綿吸音板t=15mm) [35・36階ロビー] 床／サイザルカーペットt=9mm 壁／スタッコ アンティコ 柱型：ライムストーンモカクリーム t=25mm ルーバー壁：アルミキャスト 常温ウレタン塗装 カーテンウォール方立カバー アルミ アクリル焼付け塗装t=2.0mm 天井／PBt=9.5+12.5mm AEP [7階ホール] 床／ブナフローリングt=15mm 煮沸処理 壁／パーリングアルミパネルt=2.0mm アクリル樹脂焼付け塗装+グラスウール 遮音壁 天井／有孔スチールパネルt=1.6mm アクリル樹脂焼付け塗装+グラスウール [7階フィールド] 床／カーペットタイルt=7mm 壁／スタッコ アルミパネルt=2.0mm アクリル樹脂焼付け塗装 AEP 天井／直天AEP 一部PB t=9.5+12.5mm AEP [MARUCUBE (アトリウム)] 床／花崗石ディアブラウンt=35mm J&P 壁／強化ウォーターフロントガラスt=15mm 不燃木製リブ ケイカル板木練付け 有孔スチールパネルt=1.6mm アクリル樹脂焼付け塗装+グラスウール ステンレス手すり 天井／不燃木製リブ 有孔スチールパネルt=1.6mm アクリル樹脂焼付け塗装+グラスウール [1階オフィスエントランスロビー] 床／花崗石t=25mm J&P 壁／強化ウォーターフロントガラスt=19mm 不燃木製リブ 大理石本磨きt=25mm 天井／不燃木製リブ 岩綿吸音板t=12mm [1階オフィスエントランスホール(三連アーチ)] 床／花崗石ディアブラウンt=25mm J&P 現場研ぎセラゾー 壁／花崗石レイクブラシッドブルーt=25mm 本磨き リブ材ダイノックシート貼り 有孔スチールパネルt=1.2mm アクリル樹脂焼付け塗装+グラスウール 天井／岩綿吸音板t=22mm AEP

設備概要
 空調 方式／事務所部分：各階空調機 単一ダクト方式 店舗：外調機+FCU方式 熱源／温熱源：丸の内熱供給より蒸気受入 冷熱源：吸気式冷凍機



オフィスエントランス Entrance of the office.



断面 縮尺1/2,000

ターボ冷凍機 潜熱蓄熱システム
 衛生 給水／重力式 給湯／手洗い器：蒸気-水熱交によるセントラル給湯方式 飲用：電気給湯器による個別方式 排水／伸長およびループ方式
 電気 受電方式／66kVループ受電方式 設備容量／30,000kVA 契約電力／6,700kW 予備電源／非常用発電機2,500kVA×1台 コージェネレーション兼用非常用発電機1,100kW×2台
 防災 消火／NSシステム SR100システム N2消火設備他 排煙／加圧防排煙 在来機械排煙 自然排煙 その他／非常照明 避雷設備 自動火災報知設備 防排煙設備 非常放送設備 無線通信補助設備 非常コンセント設備 非常電話設備 誘導灯 特殊設備 ホール設備

BCS Prize-winning Work

選評

Review

鈴木博之 Hiroyuki Suzuki
 岡部憲明 Noriaki Okabe
 成瀬嘉一 Kaichi Naruse

東京駅前に旧丸ビルが完成したのは関東大震災の年、1923(大正12)年であったが、大震災に被災し、1925年に再度完成した。旧丸ビルの完成によって、丸の内オフィス街は完成の域に達する。

旧丸ビルが日本におけるオフィスビルの完成を示すというには、いくつかの理由がある。この建物はすでに「一丁ロンドン」の赤レンガのビルではない。それを実質的に設計し、施工したのはロンドンの建築家ではなく、アメリカの技術だったというのがひとつの理由である。さらに旧丸ビルは、巨大な箱型のビルだった。それまでの市街地建築は、角地に建つ場合には好んでそこに塔を建てた。官庁建築や公共建築の場合は、角地に建てられるより、ゆとりのある敷地の中央に建てられることが多かったため、そのデザインは左右対称で、中央に塔を建てるものとなった。洋風の建築は市街地のランドマークであり、そのことを際立たせるには、塔を建てるのが効果的だったからである。公共建築は中央に、民間建築は角に、それぞれ塔を建てた。しかしながら旧丸ビルは東京駅の正面に建ち、皇居へとつづく行幸道路に面して建つにもかかわらず、角の部分に塔を建てていない。このようないくつかの理由から、旧丸ビルは丸の内オフィス街の完成と、日本の市街地の成熟を示すシンボルであった。

今回完成した丸の内ビルディングは、日本を代表するオフィス街のシンボルであった旧丸ビルの建物を、全面的に再開発する事業であった。事業の目的には「日本のビジネスセンターとして機能してきた「まるのうち」を、世界の人びとが交流する多様性のある街として活性化させる」ことが掲げられ、旧ビルのイメージを継承する部分と、多様な機能を内蔵する計画とが融合して、設計と建設が進められた。

多様なテナントに対応できるオフィスゾーン、多目的ホール、ショッピングゾーン、レストラン・ゾーンを備えた計画は、丸の内再開発の先導プロジェクトとして地区全体への配慮にも意を用いている。将来の発展を考慮した地下の歩行者ネットワークもそのひとつである。施工に当たっても旧丸ビルの松杭約5,400本をリサイクルするなど、再資源化を徹底した。こうして東京の中心地区における大規模工事をすみやかに、完成後は年間入場者数2,400万人という驚異的な数字を記録するに至った。都内の新しい名所となったこの建物は、オフィス街を休日にも人の集まる地区へと変貌させ、今後の地区再開発の拠点となった。

質の高い建築によって都心の活性化をもたらし、新しい都市デザインを生み出した総合的的事业として、丸の内ビルディングは高く評価することができる。

The old Marunouchi Building was completed in front of Tokyo Station in 1923, the year of the Great Kanto Earthquake. Damaged by the disaster, it was refinished in 1925. With the completion of the old Marunouchi Building, the Marunouchi office district too was essentially complete.

The old Marunouchi Building represented the culmination of the development of the office building in Japan for several reasons. That building was quite different from the early red-brick office buildings constructed in the Marunouchi district in the Meiji era. It was designed and constructed, not by London architects, but by means of American technology. In addition, the old Marunouchi Building was an enormous box-shaped building. Until then, a building constructed on a corner lot in a built-up area had a tower on the corner. Government or public buildings were often constructed, not on a corner, but in the middle of a spacious site. As a result, their designs tended to be symmetrical, with a tower rising in the center. A Western-style building was an urban landmark, and a tower was an effective way of making the building conspicuous. Thus towers were built, in the center in the case of public buildings and on the corner in the case of private buildings. However, the old Marunouchi Building did not have towers at the corners, even though it stood in front of Tokyo Station and faced the street leading to the Imperial Palace. For these reasons, the old Marunouchi Building symbolized the completion of the Marunouchi office district and the full development of the urban district in Japan.

The Marunouchi Building completed on this occasion represents the complete redevelopment of that old symbol of the Japanese office district. The project had as its objective "the revitalization of the Marunouchi district, which had long functioned as Japan's business center, into a district of diverse character where people from throughout the world can meet." It combined parts that preserved the image of the old building with a project that accommodated diverse new functions.

The project, which has an office zone that can adapt to diverse tenants, a multipurpose hall, a shopping zone, and a restaurant zone, was intended to set the direction for the redevelopment of the Marunouchi district; the entire district was thus taken into consideration in developing the project. One sign of this is the underground pedestrian network designed with the future development of the district in mind. Resources were recycled as much as possible during construction; e.g. approximately 5,400 pine piles from the old Marunouchi Building were reused. In this way, a large-scale construction project was speedily completed in the center of Tokyo. Since completion, the building has recorded an amazing 24 million visitors annually. The building, which has become a new landmark in Tokyo, has transformed an office district into a district where people gather even on holidays. It has become a center for redevelopment in the district. The Marunouchi Building is a highly successful comprehensive project that has reinvigorated the central district through architecture of high quality and has given birth to a new approach to urban design.